

駒ヶ根市における音風景の検討の試み —大学生へのインタビュー調査から—

松本じゅん子¹⁾, 野坂俊弥¹⁾, 北山秋雄¹⁾, 多賀谷昭¹⁾

【要 旨】 本研究では、長野県南信地域に位置する駒ヶ根市の音風景を提示することとした。駒ヶ根市内に1年以上居住経験のある大学生73名を対象とし、駒ヶ根市内で聞こえた音の中で心地よく感じたものやその音が聞こえた場面などをインタビューによって調べた。その結果、駒ヶ根市の音の風景には、市内を流れる一つの川に架かるこまくさ橋という吊り橋で聞こえる川の流れる音や、調査対象者が通う駒ヶ根市内の大学構内で聞こえる風の音、鳥の声、鐘の音、さらに、大学周辺地域の多くの水路で聞こえる水の流れる音が挙げられた。これらの結果より、大学生が心地よく感じる駒ヶ根市の音風景には、水の流れる音または他の自然の音が聞こえる吊り橋、大学構内、大学周辺地域といった3箇所が少なくとも提示できると考えられる。

【キーワード】 音風景, 音環境, 駒ヶ根市, 長野県, 大学生

目 的

長野県駒ヶ根市は、長野県南部に位置する小さな市であり、市の中心部の標高は676メートル、2010年11月現在の人口は約3万4千人である。駒ヶ根市は、「アルプスがふたつ映えるまち」と唱っているように、西に中央アルプス、東に南アルプスを望むことができる自然環境が豊かな地域である。2007年に実施されたNHK放送文化研究所世論調査部(2008)による「日本人の好きなもの」の調査においては、好きな都道府県について、長野県が第7位に選ばれていた。この結果については、大都市以外では北海道や沖縄県が上位に含まれていたことから、自然の豊かさが、長野県が人々に好まれる要因の一つと考えられる。したがって、駒ヶ根市も人々が好む要素を少なくとも持ち合わせているものといえる。

この駒ヶ根市においては、日常生活の中で騒音など

音に関する問題は少なく、静かで過ごしやすい音環境にある。松本ら(2010)は、駒ヶ根市内の音環境が、静かであり、比較的肯定的なものと地域の大学生にとらえられていることを示した。また、駒ヶ根市内でよく聞こえる音は、風の音や鳥の声、川の音、市内放送の音、カエルの声など、自然や地域に密着した音であり、地域の音環境の特色が示唆された。このように、駒ヶ根市内の音環境についてはその特色を提示することができるが、駒ヶ根市の音の風景(サウンドスケープ)を考えると、どのような景色が具体的に挙げられるのだろうか。

サウンドスケープとは、Murray Schafer(1977)が視覚的景観(landscape)に対して提唱した言葉であり、音の風景、聴覚的景観という意味である。景観は、視覚的景観(風景)のみで形作られるものではなく、聴覚や嗅覚など複数の感覚器官から知覚される刺激をもとに構成されている。そのため、視覚的景観や

¹⁾ 長野県看護大学
2010年9月30日受付
2011年2月2日受理

聴覚的景観はそれぞれ独立しているものではなく、相互に影響し合うことが報告されている。例えば、音は視覚的景観に系統的影響を及ぼすことが示されており (Anderson, et al., 1983; 岩宮, 1992, 2001, 2007; Iwamiya, 1997; 岩宮ら, 1992, 1999), 明るい感じの音が景観の印象をより明るくするといった、視覚と聴覚の一種の相互作用である共鳴現象が指摘されている。音楽を使用したフィールド実験においても、視覚的環境の印象が音楽に大きく影響されることが明らかになっている (山崎ら, 2007)。反対に、視覚的景観が音の印象に影響を及ぼすことも示されている (田村ら, 1992; 宮川ら, 2000)。つまり、景観を考える際には、視覚的景観だけではなく、聴覚的景観も併せて検討する必要があるといえる。

音の風景については、国内では「残したい日本の音風景百選」を初めとして、「名古屋音名所」、「残したい福岡の音風景二十一選」、「ながさき・いい音の風景二十選」、「ねりまを聴く しずけさ10選」など各地域で音名所や残したい音風景が選定されてきた (岩宮, 2000; 平松, 2007)。各地域で音名所や音風景選定に取り組むことにより、音環境に対する意識を高め、環境教育や音環境の保全につながると考えられている (岩宮, 2000; 平松, 2007)。さらに、音が地域のシンボルとして音「資源」となり、村おこしや町おこしにつながることも期待されている (岩宮, 2007)。

駒ヶ根市においても、地域の音環境に目を向け、音環境や音風景を考えることにより、地域に住む人々の環境への意識を高めることができるだろう。しかし、それだけではなく、地域の音環境や音風景を多くの人に提示することにより、地域内の人々のみならず地域外の人々にも本地域の良さ、特長を伝え、地域の活性化に結びつけることもできるのではないだろうか。その根拠としては、居住地域による音に対する印象の違いが挙げられる。駒ヶ根市で聞こえる複数の音の印象について調べたところ、当該地域の大学生はどの音を聞いても弱い印象しかもたず、各音に対する印象に大きな違いはみられなかった (松本ら, 2009)。しかし、都市部の大学生では、各音に対して様々な異なる豊かな印象を受けることが示された。このような差異に関しては、一つには居住地域の音に対する馴れが影響し

ていると推測され、少なくとも地域の大学生よりも都市部の大学生の方が、駒ヶ根市の音を興味深く聞いていたと思われる。したがって、駒ヶ根市の音環境、音風景については、地域内の人々よりも地域外の人々の方が、その良さを理解しやすいことも考えられる。そのため、駒ヶ根市の地域の活性化や自然環境の保全のためには、その特色を地域外の人々にも示していくことが重要となるだろう。

そこで、まずは地域外の人々に駒ヶ根市の特長を提示するための資料を整えることが必要となる。駒ヶ根市内の音環境の特色については上述した通りであった。しかし、駒ヶ根市内の音風景については、これまで特に提示されていない。本研究では、駒ヶ根市内で聞こえる音の中で心地よく感じる音の種類とそれらの音が聞こえた場所を調べ、駒ヶ根市の音風景を示すこととした。なお、質問項目の適切さを今後検討するため、調査対象としては、若い世代の人々を一般的な対象者として選定した。したがって、本研究では、大学生からみた音の風景を調べた。また、回答内容の確認を行うために、面接による方法を選んで実施した。

方 法

1. 調査対象者

駒ヶ根市に1年以上の居住経験がある大学生73名 (男性20名, 女性53名)。平均年齢は、20.9歳であった ($SD = 1.5$, 19-28歳)。

2. 調査内容

岩宮ら (2002) を参考に、以下の項目をインタビューによって尋ねた。

- (1) 駒ヶ根市での居住年数
- (2) これまでに住んだ経験のある都道府県名及び市町村名, 居住年数
- (3) 駒ヶ根市内の音環境に対する意見
- (4) これまで駒ヶ根市内で聞こえた音で、心地よく感じられた音の種類とその音が聞こえた場所、季節及び時間帯、その音に対して感じること (複数回答)

3. 手続き

インタビューは個別に行い、一人あたりの所要時間は約20分であった。インタビューは2009年2月から4月に行った。調査については、長野県看護大学倫理委員会の承認を得た（平成21年1月21日、承認番号23）。

結果と考察

対象者の駒ヶ根市内での居住年数の中央値は、3年（1-20年）であった。また、県内出身者は45名、県外出身者は28名であった。

1. 駒ヶ根市内の音環境に対する意見

「静か」という意見が多く（63.9%）、「うるさくはない」という意見が複数得られた。また、明らかに肯

表1 駒ヶ根市内で心地よく感じた音の種類

音の種類	回答者数	%
川の音	47	17.3
風の音（木の葉の音）	43	15.8
鳥の声	35	12.9
大学の鐘の音	19	7.0
人の声（子どもの声）	18	6.6
蛙の声	12	4.4
市内放送の音楽	10	3.7
静けさ	9	3.3
店舗や商店街の音楽	8	2.9
虫の声	7	2.6
電車の音	7	2.6
楽器を演奏する音	6	2.2
信号機の音	4	1.5
車の音	4	1.5
雪を踏む音	3	1.1
物売りの音	3	1.1
市内放送のアナウンス	3	1.1
祭りの音	3	1.1
花火の音	3	1.1
雪が降り積もる音	2	.7
温泉の音	2	.7
弓の音	2	.7
風鈴の音	2	.7
病院の中のBGM	2	.7
運動会の音、音楽	2	.7
踏切の音	2	.7

n = 73

表2 川の音に対して感じる事

その音に対して感じる事	回答者数	%
落ち着く	10	21.3
癒される	8	17.0
自然を感じる	7	14.9
気持ちが良い	6	12.8
涼しい	4	8.5
さわやか	3	6.4
良い	3	6.4
リラックスできる	2	4.3
好き	2	4.3

n = 47

定的意見を含む回答は、全体の19.4%であり、明らかに否定的意見を含む回答は、8.3%であった。否定的意見については、「車の音が騒がしい」、「畑作業の音や木を切る音がうるさい」、「寂しい」といった意見が、少数であったがみられた。他の回答は、比較的肯定的な意見を含むものとみなされた。

2. 駒ヶ根市内で心地よく感じられた音の風景

延べ267の回答が得られた。2名以上の回答が得られた音を表1に示した。「川の音」、「風の音」、「鳥の声」、「蛙の声」、「虫の声」など自然の音が多く挙げられていたが、「大学の鐘の音」、「市内放送の音楽」、「店舗や商店街の音楽」など地域に密着した音も複数挙げられた。また、駒ヶ根市の音環境が静かであることから、「静けさ」も回答にみられた。以下、回答の多かった5種類の音について述べた。

(1) 川の音

川の音に対しては、表2に示したように、「落ち着く」、「癒される」、「自然を感じる」、「気持ちが良い」という回答が得られた。



図1 こまくさ橋

表3 風の音に対して感じる事

その音に対して感じる事	回答者数	%
気持ちが良い	12	27.9
落ち着く	10	23.3
自然に囲まれている	7	16.3
季節を感じる	5	11.6
さわやか	3	7.0
嬉しい	2	4.7
安らぐ	2	4.7
和む	2	4.7
癒される	2	4.7
楽しい	2	4.7

n = 43

心地よく聞こえた場所は、駒ヶ根市内の大学（以下、大学）近くを流れる川である「大田切川」が最も多く（63.8%）、特にその川にかかる吊り橋の「こまくさ橋」（図1）が挙げられていた（38.3%）。次に多く挙げられていた回答は、水路の多い「大学周辺の地域」（図2）であった（27.7%）。

心地よく聞こえた時期は、「こまくさ橋」については、夏の日中から夜まで挙げられていたが、特に午後の回答が多くみられた（61.1%）。「大学周辺」については、春や夏の朝から午後が多く、春の午後（36.4%）や夏の午後（36.4%）が最も多かった。

(2) 風の音（木の葉の音）

風や木の葉の音に対しては、表3に示したように、「気持ちが良い」、「落ち着く」、「自然に囲まれている」、「季節を感じる」という意見が得られた。

心地よく聞こえた場所は、「大学」（図3）という回答が最も多く（39.5%）、「大学周辺の地域」（25.6%）が次いで多かった。

心地よく聞こえた時期は、「大学」に関しては、春



図2 大学周辺の地域



図3 大学構内

から秋の日中、夕方が挙げられ、夏の午後が最も多かった（37.5%）。「大学周辺の地域」については、春及び夏の朝や午後、夕方、また、秋の午後が挙げられており、夏の午後の回答が最も多かった（36.4%）。

(3) 鳥の声

鳥の声に対しては、表4に示したように、「自然を感じる」、「朝を感じる」、「気持ちが良い」、「落ち着く」という意見が得られた。

心地よく聞こえた場所は、「大学」が最も多く（28.6%）、次いで「大学周辺の地域」が挙げられていた（20.0%）。

心地よく聞こえた時期は、「大学」については、春及び夏の朝から夕方が挙げられ、春の朝が最も多かった（50.0%）。「大学周辺の地域」については、春や夏の朝が挙げられており、春の朝が最も多かった（42.9%）。

(4) 大学の鐘の音

大学で聞こえるカリヨン（図4）の鐘の音に対して

表4 鳥の声に対して感じる事

その音に対して感じる事	回答者数	%
自然を感じる	6	17.1
朝を感じる	5	14.3
気持ちが良い	4	11.4
落ち着く	4	11.4
嬉しい	3	8.6
癒される	3	8.6
のどかに感じる	2	5.7
さわやか	2	5.7
すがすがしい	2	5.7
元気が出る	2	5.7
可愛い	2	5.7
平和だと思う	2	5.7

n = 35

表5 鐘の音に対して感じる事

その音に対して感じる事	回答者数	%
一日の始まりを感じる	3	15.8
好き	3	15.8
季節を感じる	3	15.8
時間を感じる	3	15.8
気持ちが良い	2	10.5
さわやか	2	10.5
落ち着く	2	10.5
嬉しい	2	10.5
n = 19		

は、表5に示したように、「一日の始まりを感じる」、「好き」、「季節を感じる」、「時間を感じる」といった回答が得られた。

心地よく聞こえた場所は、「大学」が最も多く(84.2%)、「大学周辺の地域」(21.1%)が次に多く挙げられていた。

心地よく聞こえた時期は、「大学」については、季節にあまり関係なく朝という回答が多かった(33.3%)。「大学周辺の地域」においては、特定の傾向はみられなかった。

(5) 人の声

人の声に対しては、表6に示したように、「元気だなと感じる」、「楽しい」、「明るい」、「安心する」、「のどか」といった意見が得られた。

心地よく聞こえた場所は、「大学」(11.1%)や「大学周辺の地域」(11.1%)が挙げられていたが、大半は回答者自身の住んでいる場所であった。

心地よく聞こえた時期については、心地よく聞こえた場所の回答が様々であったこともあり、特定の傾向を示すことはできなかった。

なお、これまでに住んだ経験のある都道府県名及び



図4 カリヨン

表6 人の声に対して感じる事

その音に対して感じる事	回答者数	%
元気だなと感じる	2	11.1
楽しい	2	11.1
明るい	2	11.1
安心する	2	11.1
のどか	2	11.1
n = 18		

市町村名、居住年数に関しては、居住地域の音環境の分類が困難であったため、今回は分析に含めなかった。

以上の結果より、対象となった大学生にとって、駒ヶ根市内において心地よく感じられる音は、川の音や風の音、鳥の声などの自然のものであるだけでなく、人工的な音である鐘の音も含まれていた。それらの音は、日常生活圏内である大学や大学周辺の地域で主に聞こえることが示された。しかし、川の音に関しては、大学周辺のみならず、駒ヶ根市内の観光名所の一つであるこまくさ橋という吊り橋が挙げられていた。また、それらの場所で聞こえる音は、主に春から夏にかけて心地よく聞こえることが推察された。

したがって、駒ヶ根市内に1年以上住んだ経験のある大学生において心地よく感じる音の風景は、こまくさ橋で聞こえる川の音や、大学で聞こえる風の音、鳥の声、鐘の音、大学周辺の地域で聞こえる水の流れる音の風景が挙げられるといえる。特に小川のせせらぎの音は、日本人が最も好む音であり(NHK放送世論調査所, 1984)、水の流れる音が聞こえる場所が豊富な駒ヶ根市の音環境は豊かなものであることも考えられる。なお、ここで示された音風景は、大学周辺に住む人々には日頃当然の事のように感じられている内容かもしれない。しかし、このように風景として特定の場所を明示することで、地域外の人々にも把握しやすい形式で駒ヶ根市の良さを伝えることができると考えられる。

ところで、これらの音風景は、大学生において心地よく感じる風景といえるが、地域の他の年齢層の人々にも共通する一般的なものであるかどうかは明らかではない。したがって、今後は対象者の年齢層を拡げ、世代間で共通するものであるかを確認する必要があるだろう。さらに、性別を越えて共通するものであるの

か、同じ市内の異なる場所に住んでいる場合でも等しいものなのかといった点についても、併せて検討しなければならぬだろう。加えて、今回の対象者はすべて駒ヶ根市内の大学の学生であったが、対象学生の所属する大学の教員がインタビュアーとなっている。そのため、調査結果に何らかの偏りが反映されている可能性が考えられなくはない。今回は調査内容が対象者のプライバシーに大きく影響するものではないため、偏りは存在しても小さいものと予想される。しかし、今後、対象者と面識のない者が面接を行い、できる限り実験者（面接者）バイアスを減らすことも考慮する必要があるだろう。また、今回は半構造化された面接方法であったが、対象者が語る方法を調査で採用することで、より広く深い回答が得られる可能性がある。複数の調査方法を使用して、様々な方向から駒ヶ根市の音風景を検討することも重要と考えられる。

また、今回挙げられた音風景は、調査内容より、人々にプラスの心理的作用を及ぼしているものと考えられる。音や音楽は、それを耳にした人々に直接的に影響を及ぼす。例えば、音楽は気分誘導に使用できる有効な手段であり、音楽のもつ性質の方向へ気分を強く導くことが可能である（高橋，2002）。日常では、騒音を初め、自然の音、人工的な音、人の声など、様々な種類の音が聞こえる。それらは、音楽のように一時的に気分を変動させるのみならず、長期的に心身に影響を及ぼすこともある。駒ヶ根市の音環境や音風景が人々の心身にどのような影響を実際に及ぼしているか、さらに、それらが人々の健康資源となり得るかどうかを調べることも必要だろう。

以上より、今後は方法論的問題を改善した上で、地域の音風景を継続して調べ、地域内外の人々に情報を発信していく必要があるだろう。加えて、音環境や音風景が心身に及ぼす影響を明らかにし、地域の音環境・音風景の重要性を客観的データによって提示することも重要と考えられる。

付 記

本研究は、平成20年度長野県看護大学特別研究費補助金（「音環境が地域景観に及ぼす影響」、研究代表

者：松本淳子）の補助を受けて行われた。また、本研究は、信州公衆衛生学会第4回学術総会において発表された。

引用文献

- Anderson, L.M., Mulligan, B.E., Goodman, L.S., et al. (1983): Effects of sounds on preferences for outdoor settings, *Environment and Behavior*, 15, 539-566.
- 平松幸三 (2007): サウンドスケープデザイン, 桑野園子(編), 音環境デザイン, 173-242, コロナ社, 東京.
- 岩宮眞一郎 (1992): オーディオ・ヴィジュアル・メディアによる音楽聴取行動における視覚と聴覚の相互作用, *日本音響学会誌*, 48, 146-153.
- Iwamiya, S. (1997): Interaction between auditory and visual processing in car audio: Simulation experiment using video reproduction, *Applied Human Science*, 16, 115-119.
- 岩宮眞一郎 (2000): 音の生態学—音と人間のかかわり—, コロナ社, 東京.
- 岩宮眞一郎 (2001): 音と景観の相互作用, *環境管理*, 37, 39-44.
- 岩宮眞一郎 (2007): 音のデザイン—感性に訴える音をつくる—, 九州大学出版会, 福岡.
- 岩宮眞一郎, 細野晴雄, 福田一昭 (1992): 音環境と景観の相互作用—景観の印象に及ぼす音環境の影響と音環境の印象に及ぼす景観の影響—, *The Annals of physiological anthropology*, 11, 51-59.
- 岩宮眞一郎, 牧野剛巳, 前田耕造 (1999): スーパーマーケットにおけるBGMが売場空間の印象に与える効果, *サウンドスケープ*, 1, 107-112.
- 岩宮眞一郎, 申 鍾賢 (2002): 日本に滞在する韓国人を対象とした日本と韓国の音環境比較調査, *サウンドスケープ*, 4, 75-82.
- 松本じゅん子, 野坂俊弥, 北山秋雄 (2009): 里山の音に対する印象評価—都市部と地方の大学生による比較—, *信州公衆衛生雑誌*, 3(2), 9-15.
- 松本じゅん子, 野坂俊弥, 北山秋雄, 他1名 (2010): 駒ヶ根市の音環境に関する検討—大学生を対象とし

てー, 長野県看護大学紀要, 12, 33-42.

宮川雅充, 鈴木真一, 青野正二, 他1名 (2000): 視覚情報が種々の環境音の印象に与える影響, 日本音響学会誌, 56, 427-436.

Murray Schafer, R. (1977) / 鳥越けい子, 小川博司, 庄野泰子, 他2名 (1986): 世界の調律ーサウンドスケープとはなにかー, 平凡社, 東京.

NHK放送文化研究所世論調査部 (2008): 日本人の好きなものーデータで読む嗜好と価値観ー, NHK放送出版協会, 東京.

NHK放送世論調査所 (1984): 日本人の好きなもの, NHK放送出版協会, 東京.

高橋雅延 (2002): 感情操作方法の現状, 高橋雅延, 谷口高士(編), 感情と心理学ー発達・生理・認知・社会・臨床の接点と新展開ー, 66-80, 北大路書房, 京都.

田村明弘, 鈴木弘之, 鹿島教昭 (1992): 植樹帯による喧噪感の緩和, 日本音響学会誌, 48, 776-785.

山崎晃男, 山田圭子 (2007): 音楽が環境の印象に与える影響について, 日本心理学会第71回大会発表論文集, 710.

【Material】

Which spots represent the soundscapes in Komagane? : Interviews with college students

Junko MATSUMOTO ¹⁾, Toshiya NOSAKA ¹⁾, Akiyo KITAYAMA ¹⁾,
Akira TAGAYA ¹⁾

¹⁾Nagano College of Nursing

【Abstract】 We attempted to find out the soundscapes representing Komagane, a countryside town located in southern area of Nagano Prefecture in Japan, for young inhabitants. We interviewed 73 college students living in Komagane, for more than one year. They were asked to indicate what sounds they had felt comfortable and where in Komagane they heard each of such sounds. The soundscapes felt comfortable by participants included the sounds of 1) the water running under the suspension bridge over a river bordering the town; 2) wind, 3) birdsong, and 4) the carillon in participants' college campus; and 5) streams near the campus. These results suggest that the soundscapes felt comfortable by the students are mostly of natural sounds such as those of rivers, streams, the wind, and birdsongs, and the places for the soundscapes are three spots: 1) the suspension bridge, 2) the college campus, and 3) its adjacent area.

【Key words】 soundscape, sound environment, Komagane, Nagano Prefecture, college students

松本じゅん子
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
長野県看護大学看護学部
Tel:0265-81-5132 Fax:0265-81-5132
Junko Matsumoto
Nagano College of Nursing
1694 Akaho, Komagane, Nagano, 399-4117 Japan
Tel:+81-265-81-5132 Fax:+81-265-81-5132
E-mail:matsumoto@nagano-nurs.ac.jp